

岡本太郎

神奈川県生まれ。戦後を代表する芸術家。父は人気漫画家だった岡本一平、母は歌人で小説家の岡本かの子。東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学するが、この年、両親に同行して渡欧し、10年にわたってフランスで暮らす。パリでピカソの絵を見て強い衝撃を受ける。1940年、第二次世界大戦のため帰国。42~46年まで中国に出征。復員後、前衛的な芸術活動を展開する一方、縄文土器に美術的な価値を見出した。表現活動は多岐にわたり、絵画、彫刻のみならず、舞台や建築、デザインと幅広く活躍した。1964年の東京五輪では参加メダル表側をデザイン(裏側は田中一光)。68~69年にメキシコで制作された壁画「明日の神話」が行方不明だったが、2003年発見され、現在は東京・渋谷駅の連絡通路に設置されている。1970年の大阪万国博覧会ではシンボル「太陽の塔」を制作し、マスコミにも積極的に登場して「芸術は爆発だ」の流行語を生んだ。